

ラットの血漿脂質成分と腸の長さに及ぼすルバーブ食物繊維の影響
仙台白百合短大家政 ○高橋伸子 佐々木ルリ子 左右田晴美

〔目的〕ルバーブはタデ科多年草の西洋野菜で、外国では葉柄をジャムやゼリーとして食用することが多い。又、肉食を主とする欧米人にとっては整腸剤を兼ねた食後の食物といわれている。しかし、日本では各地の家庭菜園としてわずかに栽培、利用されているにすぎない。今回、演者らはルバーブの食物繊維を用いてラットの血漿脂質成分や腸の長さへの影響を検討した。

〔方法〕4週齢のSD系雄ラット15頭を、コントロール群として無食物繊維食群（Ⅰ群）、食物繊維量を4%としてそれぞれセルロース食群（Ⅱ群）、ルバーブ食物繊維食群（Ⅲ群）の3群に分け、18日間飼育した。その間、体重、摂食量、糞便量を測定し、飼育後絶食させ、採血し、主な臓器、腸管を摘出し、重量、長さなどを測定した。さらに血漿中の脂質成分を測定した。

〔結果〕体重増加量、摂食量は、各群間でほとんど差はなかった。糞便量はⅠ群に比べ、Ⅱ、Ⅲ群の食物繊維食群で多かった。血漿中のトリグリセリド、リン脂質、総コレステロール濃度はⅠ群に比べ、Ⅱ、Ⅲ群でやや高い傾向がみられたが、総コレステロール濃度に占めるHDL-コレステロール濃度の割合はⅢ群で有意に高かった。小腸はⅠ群>Ⅱ群>Ⅲ群の順に短く、大腸はⅠ群<Ⅱ群<Ⅲ群の順に長かった。

以上、ルバーブの食物繊維によるHDL-コレステロール濃度や腸の長さなどへの影響が示唆された。